



発行：京都府立峰山高等学校広報担当 所在地：京都府京丹後市峰山町古殿 1185 番地
Tel:0772-62-1012 Fax:0772-62-1013 www.kyoto-be.ne.jp/mineyama-hs/

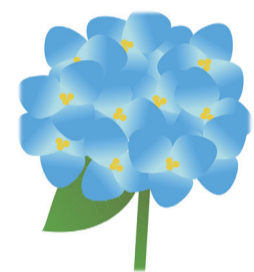
芸術鑑賞

5月13日(水)に、丹後文化会館で芸術鑑賞を行いました。今年は神風特攻隊をテーマにした演劇「The Winds of God」(シアター青芸)を鑑賞しました。

主人公は現代の若手漫才コンビ〈誠〉と〈金太〉。この二人が交通事故に遭って意識を失い、気が付くとそこは第二次大戦末期の特攻隊基地だった、というのが大まかなストーリーです。しかし単純にタイムスリップしたというわけではなく、二人はなぜか周囲の人に〈岸田中尉〉〈福元少尉〉という別人として扱われます。彼らは零戦で出撃したものの墜落事故により特攻はできなかった人物とされ、〈誠〉と〈金太〉のおかしな言動は事故による記憶の混乱と見なされてしまいます。こうしてわけがわからないまどこかづれた軍隊生活が始まります。当初は逃亡を企んだりもしますが、やがて周りの仲間が次々と出撃していく中で二人の意識に変化が見え始めます。果たして二人の選択は、そして現代に戻ってくることはできるのか。コミカルな場面とシリアスな場面がうまく配置され、とてもおもしろく、なおかつ考えさせられる劇でした。カーテンコールでは役者の方から高校生たちへのエールもいただき、とてもよい芸術鑑賞になりました。



2015年はちょうど終戦後70周年にあたり、そういう意味でも今年鑑賞するのにふさわしい作品だったのではないかと思います。9月には文化祭を開催する予定ですので、演劇を発表する生徒たちには、今回の芸術鑑賞を参考に演技や音響照明の工夫、脚本や設定の練り込みなどをぜひともがんばってもらいたいです。



科学の教室①

“大阪大学いちょう祭”で研究室を見学 ～科学の現場を体験！～

5月2日(土)に、大阪大学と兵庫県立人と自然の博物館に行きました。1、2年生58名がバス2台に乗って朝7時に出発。午前中は大阪大学吹田キャンパスに行き、工学部、薬学部、産業科学研究所、微生物研究所などを回り、興味のある研究室を自由に見学しました。午後は豊中キャンパスに移動し、理学部と基礎工学部を中心に自由に見学しました。帰りには三田市にある兵庫県立人と自然の博物館に行き、生態学分野の研究員である三橋先生に、「コウノトリの野生復帰と自然再生」というテーマで講義をしていただきました。様々な研究を行っている研究室を自ら訪問し、様々な実験機器等を前にして学生や先生に説明を受けたり質問をしたりして、ふだん大学に触れる機会の少ない生徒にとって、学問の世界に触れ学ぶ意欲を高めるよい機会になったのではないかと思います。



DNAの分子模型の組み立て。
(産業科学研究所)



光を当てると色が変わるフォトクロミック反応 (基礎工学部)



ブラックホールと宇宙のお話 (理学部・宇宙地球科学科)



身近な所に潜む数学現象 (理学部・数学科)



三橋先生のコウノトリの講義 (人と自然の博物館の展示室)



参加した生徒の集合写真 (人と自然の博物館)

<生徒の感想より>

○吹田キャンパスでは薬学部で本物のネズミの脳を見たり、情報科学研究科では人間の錯覚を利用した五感伝達のための要素技術をデモ体験した。行っている研究がどんなことに役立つのか、何のために研究しているのかなどを詳しく聞くことができ良かった。(2年・女子)

○野生のコウノトリ復活には様々な分野の人が携わっていることを初めて知った。地形の起伏や環境の種類が多いからコウノトリが最後までいたということはとても納得できた。今の環境は人間には適しているが動物には適していないところが多いと思う。(1年・男子)

3年生・小論文講演会 / 分野別進路説明会

・4月22日(水)に、3年生を対象とした小論文講演会を実施しました。自身も小論文の添削指導員をされていた朝日晶子氏(学研教育みらい)から、小論文は受験に関係なく、大学入学後も社会に出てからも必要であること、小論文作成上の注意点、日頃の取組や意識の持ち方の大切さを学びました。また、実際の小論文入試の問題を取り上げ、参加生徒に質疑応答しながら、その作成過程を丁寧に説明していただきました。受験で小論文を利用する生徒にとって、その対策を本格的にスタートすることができました。

・4月30日(木)に、3年生対象の分野別進路説明会を実施しました。本校の進路指導部教員をはじめ、外部からも講師をお招きして、分野ごとの動向、進路先の選び方、選抜方法、そして希望進路の実現に向けた取組へのアドバイスなど、具体的な説明を受けました。受験という言葉がいよいよ間近なものとなり、生徒の眼差しにも真剣さが増してきました。仲間同士の切磋琢磨を通じて、学年全員の進路実現に向けて決意を新たにすることができました。



3年生人権学習「就職差別について考える」

4月23日(木)に人権学習を行いました。採用試験では本人の意欲や能力、適性によって評価されるべきですが、不適切な質問や書類への記述が求められた時にそれらを見抜き、対処できる力を身につけてほしいと思っています。また、自分自身は他者を偏見で判断していないかどうか振り返りました。



<生徒の感想より>

○みんなが“人”を見て個性を受け止め、人そのものの中身を見られるような社会っていいなと思った。そして自分の意思もしっかり持ちたいと思う。
○学校にいるということで社会からある意味で守られていると感じた。大人になるということは自分で自分を守らなければならないということ。そのために勉強だけでなく、社会も学び、自己を守りつつ生きていけるようにならなければならないと思った。

2年生人権講演会「日本社会を生きる世界人」

4月23日(木)に具志アンデルソン飛雄馬氏(「多文化共生NPO世界人」理事長)による講演を聞きました。日本に移り住んだ時に受けたいじめ、非行、更正、人との出会いなど、経験されたことやそこから感じ取られたことをリアルに語っていただき、多様な背景を持つ人々とのように共生していくべきかということを教えていただきました。また、困難に負けずあきらめずに夢をかなえていく勇気ももらいました。

<生徒の感想より>

○他国の人を差別するようなことが日本では多くあると思うので、日本人かそうでないか、と考えるより先に「みんな人間だ」と考えられるような世界になればいいなと思った。
○ユーモラスな話から自分の経験、そして今の日本にある課題などを聞いて、どうでも良いと思うことや外国の人だからと特別視することが良くないことだと気づかされ、今生きている社会を考えさせられる良い講演会だと思いました。



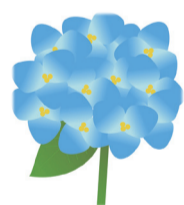
生徒総会

5月1日(金)、生徒総会が行われました。生徒会会計報告が行われた後、生徒会執行部の紹介があり、生徒会の目標が発表されました。今年度の生徒会スローガンは『Yー勇往邁進、Dー大胆不敵、Kー格物致知』に決まりました。また、本年度最大の行事である峰高祭のテーマは『Next Challenge ～自分の殻を打ち破れ！～』に決定しました。現状に満足せず、協力し助け合っていくことで、より良い変化を求めて挑戦することを主旨に作られました。全校生徒からは拍手が起っていました。



第1回交通マナー向上とあいさつ運動

5月8日(金)に、第1回交通マナー向上とあいさつ運動が行われました。朝の陽ざしがとても気持ち良く、生徒会執行部員と各クラスの交通委員、PTA、警察の方々が登校する生徒たちに笑顔で「おはようございます」と声をかけていました。



1年生・非行防止教室

4月23日(木)に、1年生を対象に「非行防止教室」を行いました。京都府警察本部生活安全部・少年サポート北部センターの西川真吾さんをお迎えして、少年非行の現状とスマートフォンの危険性について話をいただきました。インターネットによって、多くの情報が得られるようになった一方で、ラインやツイッターによる怖さなどもわかりやすく説明していただきました。誰もが被害者、加害者になるというネットの危険性を映像などを交えながらわかりやすく説明していただきました。



リレーメッセージ

Put your passion into action (やる気だけでなく行動を！)

皆さんは、今自分がいる環境で何か行動を起こせていますか? 「探究クラスに入ったから勉強ができるようになる」、「講習を受けるから勉強するようになる」、「〇〇部に入ったから〇〇が上手になる」。当たり前のように聞こえますが、そういった環境にいて安心して受け身になっていないですか? 私も留学前に、「海外に行くんだから自然と英語が喋れるようになる」と少し安易な気持ちで現地に行って、想像以上に自分自身が努力しないといけないことに気付かされました。学校でも生活面でも、ただこなしているだけでは英語の上達はおろか、自分から行動したことにはなりません。「間違ってもいいから、とにかく自分の意見を述べる」。これを意識して留学生活を送りました。他にも現地のボランティアやプロジェクトに参加して、そこで出会った人たちと交流し、留学前には想像しなかった出会いや経験をたくさんすることができました。自分から行動できることはいくらでもあります。どんなに小さくても、「今この場所(環境)では自分は何ができるだろう? じゃあこれをやってみよう!」と意識してみてください。自分自身も学校生活もいい意味で激変すると思います。Don't be passive, take action! 英語科 有賀 恵弥

